



どんな学校？

課程:全日制専門学科(農業)

令和4年に創立116年目を迎える伝統のある農業高校です。園芸科学科は野菜、果樹、草花の栽培や造園などについて、畜産科学科は家畜の飼育や管理、乳加工・肉加工技術について、農業総合科は食品製造や、付加価値の高い農業経営についてそれぞれの学びを深めています。各科とも実験・実習を中心とした体験的な学習で実践力を身に付けています。



どんなメンバー？

学校

食品加工部の生徒・顧問
地域連携部会担当教員

地域

- ・海老名市役所 農商連携事業
- ・ハイウェイロイヤル株式会社
- ・ミルパワージャパン
- ・株式会社スイーツスタイル



どんな団体？

- <海老名市役所 農商連携事業>
「えびな元気にぎわい振興計画2021」に位置付けた事業で、6次産業化を推進しています。
- <ハイウェイロイヤル株式会社>
高速道路サービスエリア内のレストラン・売店「ぼるとがる」を運営しています。
- <ミルパワージャパン>
パン屋さんによる、パン屋さんのための、パン用小麦製粉所です。
- <株式会社スイーツスタイル>
ミツウロコグループの外食チェーンで、ベーカリーショップ「モンタボー」を運営しています。



はじめたきっかけは？

本校は、これまでSDGs教育の一環として、小麦の自給率の増加と地産地消を推進するため、2008年から海老名市農業活性化事業組合と協力し、市内の耕作放棄地を活用し、小麦「ユメシホウ」を栽培しています。栽培した「ユメシホウ」は、校内外のイベントや食品製造実習で活用していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響でイベント等の機会が減ったため、在庫が残っていました。

そんな中、海老名市から「ユメシホウ」を使用したいという依頼がありました。それは「ミルパワージャパン」の協力でパン専用の小麦粉に加工し、その小麦をパン製造販売者「ぼるとがる」やベーカリーショップ「モンタボー」がパンに加工して販売するという内容でした。

本校生徒の成果物を、地域で役立てることができる良い機会であるとともに、本校のスクール・ポリシーである、命の大切さを認識でき、地域や社会の健全で持続的な発展を支える意識及び態度を身に付けることができると思い、依頼に応えさせていただくことになりました。



神奈川県教育委員会教育局
指導部高校教育課高校教育企画室

この冊子はホームページにも記載しています →



すくコミ!

～コミュニティスクール事例集～



学校名

中央農業高等学校②

活動名

地域連携部会
小麦「ユメシホウ」
を活用した地域連携

取組紹介

取組内容

時数	内容
1	市農業活性化事業組合と協力し、小麦「ユメシホウ」を栽培
2	小麦「ユメシホウ」の在庫について有効的な活用方法を検討
3	パン製造販売業者が製造した「ユメシホウ」を使ったパンの販売
4	地域貢献の経験を生かして、生徒の学びをさらに広げる



2 STEP

2021年～

在庫の活用を検討している中、海老名市や地元のパン屋さん、レストランから「ユメシホウ」を使用したいという依頼がある。



3 JUMP

2021年12月

「ぽるとがる」で製造したパンは、海老名サービスエリアの「ぽるとがる」店内で販売し、「モンタボー」が製造したパンは、「麻布十番モンタボー nonowa 国立店」がリニューアルオープンする際の目玉商品として販売。その際、パンの販売のお手伝いをさせていただく。



4

FLY

ユメシホウを使ったパンは美味しいと大好評で完売続出！

耕作放棄地の活用だけでなく、滞留在庫の解消が、SDGs教育につながり、持続可能な社会の実現に向けて、生徒一人ひとりが自分事として考える機会になった。

生徒の感想

倉庫で眠っていた小麦が食品としてたくさんの方の手に届くことが嬉しい。美味しいと言ってもらえて、自分たちの「ユメシホウ」に自信が持てた。大切に育ててよかった。

地域の感想

生徒さんが作った「ユメシホウ」は焼き上がりが、もちりとして香りもよい。プロが作る小麦と遜色なく、自信をもって提供できる。安全・安心な国産原料の使用は、環境に配慮した取組として今後も推進していきたい。

先生の思い

在庫を有効活用することで、生徒に成果物や技術に自信をもってもらい、またSDGsを学ぶ機会にしたいな。

SDGs教育の一環で、市農業活性化事業組合と協力し、市内の耕作放棄地を活用した小麦「ユメシホウ」を栽培。収穫した小麦は校内外のイベント等で活用していたが、新型コロナウイルスの影響で在庫が残ってしまう。